

2012年度・ロシア史研究会大会パネル企画

科学とソヴィエト権力

— 対抗・協調・縫れ —



ジョレス・メドヴェージェフの衝撃的な著作『ルィセンコ学説の興亡』(1969年)以来、すっかり定着してしまったかのように思われたソヴィエト科学観、すなわち、ソヴィエト科学を党・国家統制の犠牲者として描く見方にたいして、ソ連邦解体後新たに公開された文書記録を資料的基礎としつつ、科学者をときとして事態の転換をもたらした、ひとつの主体として理解する、新しいソヴィエト科学史の見方が支持を集めつつある。本企画では、こうした見方を切り開いたA. コジエフニコフ(A. B. Kojevnikov, *Stalin's Great Science: The Time and Adventures of Soviet Physics*. Imperial College Press, 2004), S. ゲローヴィッチ(Slava Gerovitch, *From Newspeak to Cyberspeak: A History of Soviet Cybernetics*. The MIT Press, 2002)両氏を招き、旧ソ連邦の“力(マハト)”の背景にあったソヴィエト科学の実相に迫る。

13:30 開会挨拶: 市川浩(広島大学) : Opening Remark: Ichikawa Hiroshi.

13:40 報告1: アレクセイ・コジエフニコフ(ブリティッシュ・コロンビア大学)「ソヴィエト政策の共同プロデューサーとしての科学」

Primary Speech 1: Alexei Kojevnikov, “Science as a Co-producer of Soviet Policy.”

14:30 報告2: 金山浩司(日本学術振興会特別研究員PD)「科学とイデオロギーの狭間で—戦前期ソ連における物理学をめぐる論争の弁証法—」

Primary Speech 2: Kanayama, Koji, “Between Science and Ideology: The Dialectic of the Discussions on Physics in the Prewar Soviet Union.”

15:10 報告3: スラヴァ・ゲローヴィッチ(マサチューセッツ工科大学)「社会主義下のイノベーション—戦後ソヴィエト数学の公式の構造と非公式のメカニズム—」

Primary Speech 3: Slava Gerovitch, “Innovation under socialism: Formal structures and informal mechanisms of postwar Soviet mathematics.”

16:00~ コメント[梶雅範(東京工業大学)]と討論: Comments & Discussion

2012年10月6日(土) 13:30-16:30 ※入場無料, 同時通訳付
立命館大学衣笠キャンパス明学館81教室

6 October, 2012, 13:30-16:30, Ritsumeikan University (Kinugasa), Meigakukan 81.

問い合わせ先: 科研・代表者: 市川 浩(082-424-6397)